



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

## 再会を期して

## ～ 臨床心理士より ～

臨床心理士という仕事はまだ珍しいのか、日頃からさまざまな相談やお悩みを寄せていただいています。一人でやっておりますので限界はありますが、あまり決めつけず、来られた人にまずは耳を傾けるようにしています。

この仕事を通して私が感じてきたことは、人は本当にそれぞれが違う、ということです。ふるさとや親きょうだいも、性別や年齢も、顔かたちや体格も、なりわいも、趣味や嗜好も寝相も、価値観・倫理観・死生観も、持病や飲んでいる薬も、心の傷も背負っている十字架（負い目）も、みなそれぞれが違うのです。それらを衝突させたり無理に同じくしようとするよりは、「互いに違っている」ことを共有してみようとする、新たな第3の道が見えてくることがあります。

このような事をあらたまって書いたのは、新型コロナウイルス（COVID-19）による世界的な感染拡大が起きてから、どうも事情が変わってきているように思うからです。人々が同じような感覚に傾いているように感じます。例えば、白か黒かという決めつけや、投影同一化（自分がイライラしているのに、相手が怒っていると錯覚する）などです。視野が狭くなって根拠のない思い込みが募ったり、偏見（コロナに関わった人への差別意識など）が強まったりします。体の感染は消毒で防げても、自分の心に感染は起きてないでしょうか？

どうしてこういう事が起きるのでしょうか？感染への恐れでしょうか。「ステイホーム」によって世の人がほぼ同じ経験をしている事も関係あるかも知れません。精神科医の斎藤環は、「不要不急」の名のもとに、人々が多くの日常作業を控えたことで、心の均一化をもたらしたのではないかと述べています。振り返ってみると、不要不急な日常の積み重ねがあったからこそ、私は私で、あなたはあなたでいられたのでしょう。本人にとっての用が、どれだけ必要で大切であったかと痛感します。この原稿を書いている時点（2020/05/29）では、新たな感染拡大を懸念する声が聞こえています。引き続き、セルフケアを忘れずゆきましょう。心を麻痺させないように。（とある芸人さんはカイワレ大根を育てたそうです。私は塩麴を作りました。）

\*

イラストレーターのタナカサダユキさんが創作した短歌を載せてみます。

「しばらくは離れて暮らす コとロとナ つぎ逢ふ時は 君といふ字に」

みなさん持ち場を守りましょう。

（地域医療連携室 臨床心理士 谷川 誠司）



## 老健やましろより

### ～ ガラス越し面会のその後 ～

以前、この紙面でもお知らせさせていただきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の面会制限が続く中、当施設では、5月11日から施設の自動ドアのガラス越しで施設用のPHSを使用して会話をさせていただく“ガラス越し面会”を始めました。開始から2週間で延べ54名の利用者様がガラス越しの面会をされました。

また、5月18日からは、スマートフォンのLINEアプリでのオンライン面会も開始しました。こちらはまだ利用された方は少ないのですが、ガラス越し面会のように施設に来所することなく、ご自宅から入所者様と会話していただくことが可能です。

5月25日、全国的に非常事態宣言が解除となり『新しい生活様式』が公表されました。今後、当施設でも感染の状況を見ながら面会制限の解除についても検討していく予定ですが、一人ひとりが感染対策を行いながら、少しずつ以前のような生活を取り戻していくことができればと思います。  
(老健やましろ 管理部長 三村 裕子)

## 地域医療連携室より

### ～ コロナから日常の大切さを学ぶ ～



地域包括ケア病棟“彩り”でご活動頂いている「傾聴ボランティアうさぎ」さんですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月より活動を控えて頂いています。

先日、当院の“彩り”の近況を兼ねて、代表の澤村さんにご連絡させていただきました。病棟の吉崎看護師長からは、「傾聴ボランティアうさぎ」さんが来られなくなってから患者さん（特に認知症の患者さん）の入院生活の質が低下していると報告を受けていましたので、電話の中で澤村さんには、「傾聴ボランティアうさぎ」さんの活動が患者さんにとっていかに有効であったのか、感謝の気持ちをお伝えさせていただきました。また、澤村さんからは、会の近況報告として、他の施設でも活動を控えているため活動の場がなくなり、腕が鈍るとおっしゃっていました。

「傾聴ボランティアうさぎ」さんに“彩り”で活動を始めて頂いてから2年近く経ちましたが、今回の件で、我々にとって「傾聴ボランティアうさぎ」さんに関わって頂くことが「日常」になっていたこと、そして「日常」がいかに大切であるかを改めて実感しました。

\*

緊急事態宣言が解除されましたが、気の緩みが第2波・第3波につながると言われています。気を緩めず、各自ができること（3密を避ける・マスクを着用する・手指消毒するなど）を引き続き、一緒にしていきましょう。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

お気軽にお問い合わせください。

0774-73-1818（担当：中野・中嶋・松田）